

言語通級指導教室「自立活動」学習指導案

児 童
指導者

自分の表現の仕方を工夫することで、話すことの抵抗を軽減する学習活動の工夫

1 単元名 場に応じた話し方をしよう

2 児童の実態

本児は、昨年度から本校ことばの教室で通級指導（週2時間）を受けている。

本児の話し方の特徴として、

- ・初めの音がなかなか出てこなかったり、語の途中で不自然に止まってしまったりする。
- ・息を大きく吸ってから話し始めるときがある。
- ・とくに話題を定めない自由な雰囲気での会話では音が出てこなかったり、止まってしまったりすることは少ないが、改まって言わなければならないときや音読のときには音が出てこなかったり、止まってしまったりする話し方が表れやすい。
- ・文章の中で読点や句点で区切ることを意識して音読したり、一つ一つの音を伸ばして音読したりすると、不自然に音が切れてしまうことは減少する。

ということが挙げられる。

本児は、会話や音読に対して不安を感じており、音がなかなか出てこなかったり、途中で止まってしまったりして、読むことや話すことに時間がかかってしまい、みんなに迷惑をかけるのがいやだと考えている。通級指導教室では、練習時間以外にも話をしに来て、担当以外の教師に自分から話しかけるような外交的な面が見られる。吃音があるために、不自然になってしまう自分の話し方が気にはなっているものの、話がしたいという意欲は十分にもっているものと思われる。

コミュニケーション課題を捉える視点に沿って、本児の実態を整理すると、

- ①吃音がある自分を否定的に捉えており、集団の中で音読することや発言することに対して抵抗感がある。 (「関係性の発達」)
 - ②自分の吃音が変化することや、スムーズに読むことができる読み方があることは理解している。 (「認知の発達」)
 - ③吃音があるために、音読や発言のときに話し始めの音がスムーズに出にくいことがある。 (「伝達手段の発達」)
 - ④自分の思いを伝えたい意欲はあるが、吃音があるために、音読することや発言することに対して抵抗感がある。 (「情緒の安定・調節」)
- となる。

研究内容 1

これらのことから、自分の思いを伝えたい意欲はあるが、吃音がある自分を否定的に捉えていると思われる本児のコミュニケーション課題は、本児の自分の吃音に対する考え方に働きかけ、吃音に余計に注目しない見方について理解を深めることと捉えた。本児は、話している自分に注目されたり、話すときに時間がかかってしまったりすることに不安を感じており、集団の前で音読したり、発言したりすることに対して抵抗感がある。本児の吃音は、場面や読み方によって状態が変わることから、吃音が表れにくいような話し方や読み方を多く経験したり、吃音があっても自分の思いが伝わるような経験をしたりすることで、吃音に余計に注目しない見方を知ることができるとと思われる。

3 単元について

本単元は、友人に対して話すときに話し方の観点を決め、その話し方の観点に沿って話すことができたかどうかを担当と一緒に確かめることを通して、吃音に余計に注目しない見方について学び、本児の吃意識について働きかける単元である。

本児は集団の前で自分の思いや考えを発表する際には抵抗感を感じるが、担当との日常的な会話や、意見の交流の際にはそれほど抵抗感を感じていないように見受けられる。このことから、本単元では、担当との話し合いよりは抵抗があると思われる、それほど親しくはない同年代の友人との話し合いを設定し、その友人に自分の思いや考えを伝えるという活動を行う。

自分の思いや考えを伝える際には、自分の吃音に余計に注目しないように、あらかじめ話し方の観点を決め、話す速さや、ことばづかい、内容、姿勢などに注目させ、自分の話し方に気をつけるようにする。これらの話し方の観点に沿って伝えることで、相手に自分の思いや考えが伝わったり、話し合いが深まったりすることで、本児のコミュニケーション課題である、吃音に余計に注目しない見方について学習を深める。

研究内容 1

4 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、以下のことに留意したい。

「みとおす」段階では、本児と一緒に話し方の観点、取り組み方について計画を立てる。

「ふかめる」段階では、話し方の観点に沿って話すことに取り組み、話し方の観点に沿った話し方ができたかどうかを本児と確かめる。

「まとめる」段階では、自分の取り組みについて振り返る。

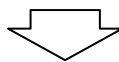
これらの段階を経ることで、吃音に余計に注目しない自己評価をし、自分に対する見方に働きかけることができるようにしたい。

5 単元の指導目標

- ・話の内容や相手によって、話し方に違いがあることがわかる。
- ・話の内容や相手に適した話し方ができる。
- ・自分の話の内容や相手に適した話し方ができているか、聞くことができる。
- ・吃音があっても、自分の伝えたいことを話すことができる。

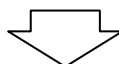
6 指導計画

前単元 いろいろな読み方をしよう



本単元 場に応じた話し方をしよう (7時間)

| 段階 | 学習課題 | 学習内容 | 時間 |
|------|---|---|-----------------|
| みとおす | | ○単元のめあてと学習内容について見通しをもつ。 | 1 |
| ふかめる | ○話し方の観点に沿って、話すことができる ○自分の考えと相手の考えとを比べて聞くことができる ○自分の話し方を振り返り、話し方の観点に沿って、確かめることができる | ○自分と同世代の友人と共通の話題について話し合う。 ○自分の考えをまとめて、伝え方を工夫する。 ○自分の考えと相手の考えとを比べて聞く。 ○相手の考えに対して、自分の考えをまとめて、伝える。 ○自分の考えと相手の考えとを比べて、話し合う。 | 5 (本時 4時) |
| まとめる | | ○自分の話し方を振り返り、単元の感想を書く。 | 1 |



次単元 発表会の練習をしよう

7 本時の指導

(1) ねらい

「話し方のポイント」に沿って、自分の話し方を確かめることができる。

(2) 展開

| 段階 | 学 習 活 動 | 教師の関わり | 評 価 | 達成できない ときの手立て |
|------------|--|--|--------------------------------|---------------------------------|
| みとおす 10 | 1 前時の様子をVTRで振り返り、相手の考えを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「話し方のポイント」に沿って本児に振り返らせるようにする。 ・相手の考えと自分の考えを比べさせ、学習の動機をもたせる。 <p style="text-align: right;">研究内容 2</p> | | |
| | 2 本時の学習活動と課題を確認する。 「話し方のポイント」にそって話そう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって取り組めるように、学習活動を確認する。 ・緊張せずに学習が進められるようにことば掛けに配慮する。 | | |
| ふかめる 30 | 3 相手の問いに対して、どのように答えるか考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話す内容や順序について大まかにメモを取らせるなど、本児が話しやすいような方法を示唆するようにする。 ・「話し方のポイント」とともに、新たに付け加える観点についても確認する。 ・話の内容や話し方が相手に適したものになるように注意させる。 <p style="text-align: right;">研究内容 2</p> | ○相手にわかりやすいようにことばや話し方を選ぶことができる。 | ★「話し方のポイント」を振り返らせ、ことばや話し方を選ばせる。 |
| | 4 「話し方のポイント」に沿って相手の問いに対して答える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本児の使った具体的なことばを用い、「話し方のポイント」に沿って自分の話し方を確認させる。 | ○話の内容や相手に適した話し方ができる。 | ★「話し方のポイント」に沿って確認しもう一度話すようにさせる。 |
| まとめる 5 | 5 本時のまとめをし、次時の学習内容を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをふり振り返り、「話し方のポイント」に沿って話すことができたかどうかを自己評価させる。 ・今日の学習で「話し方のポイント」に沿って話すことができたことで、自分に対してどう見るかを評価させる。 <p style="text-align: right;">研究内容 2</p> | | |